

新発田市租税教育推進協議会長賞

私と大切な友達をつなげてくれたもの

新発田市立 加治川中学校 三年 渡 邊 陽 向 さん

税金は私たちの生活になくてはならないものである、社会の時間や税理士の人から話をきく租税教室などでそう学習しました。しかし税金が何に使われていて、自分にどう関係しているのか、私はあまり知りませんでした。そこで私は、税金のしくみや使われ方についてインターネットで調べることにしました。

インターネットで見つけた、色々なサイトには私の知らないことがたくさん書いてありました。税金は病院や警察、消防など、私たちの安全、安心のために使われていること。ビールなどの酒類、たばこにも税がかかること。大人になって働くようになったら思っていたよりもたくさんの税金を納めなければならないこと。もし税金がなければ私たちは病院に行けないかも知れないし、やりたいことも自由にできないかもしれないこと。

その中でも一番私の印象に残ったのが「公立の学校は税金によって運営されている」ということでした。税金は決して大人だけに関係するものではなくて、私たち中学生にとっても重要なものなのだ。もし税金がなかったら、私は加治川中学校に通えなかったかもしれないのだから。そんなふうに思いました。

私が加治川中学校に入学したのは二年前の春でした。みんな保育園や小学校からの友達でそのまま近くの中学校にみんな入学しました。私が小学生の頃から陸上をやっていたこともあり、何人かの友達と陸上部という部活に入りました。陸上部のメンバーになってから、私は年に何度かある大会の日が楽しみで仕方ありませんでした。通常の活動日は学校のグラウンドで自分の種目を練習をするのですが大会の日だけは私にとって特別でした。ある日は同じ種目で競い合った人と友達になったり、またある日には友達が知り合った人と友達になったり。この部活動を通して、いつの間にか私には他校にも友達ができていました。みんな、かけがえのない友達です。

もし日本に税という制度がなかったら、市立中学に通うには三百四十万円ものお金が必要になります。そうしたら私は、この大切な友達と出会えなかったのかもしれない。

税の作文を書くことをとおして、税金の仕組みは高校生の私にとっても重要なものだと知ることができました。しかし同時に、いま日本では税収が足りておらず、このままでは近いうちに税の制度がうまくいかなくなるかもしれないことも知りました。五年後には、私も税金を納める立場になります。その時私に何ができるのか、これからも税について学び続けていきたいです。